

「八女福島の燈籠人形」公演（国指定重要無形民俗文化財）

1 開催日：令和5年9月22日（金）～24日（日）

※口開け公演 9月21日（木）20時00分

2 公演時間：①13時30分 ②15時 ③16時30分 ④19時 ⑤20時30分

（※1回の公演時間 約30分）

3 芸 題：「玉藻之前」（たまものまえ）

※解説については、別紙参照

4 開催場所：八女市本町 福島八幡宮境内

5 観 覧 料：無料

6 交通アクセス：八女ICから車で約10分

7 連絡先：八女市教育委員会教育部文化振興課

☎0943-23-1982



8 概 要

「八女福島の燈籠人形」は、福島八幡宮「放生会」の奉納行事として、秋分の日付近の3日間で上演されるからくり人形芝居です。当初、山鹿市・大宮神社から燈籠を譲り受け、江戸時代半ばに福島町民が独自の工夫をこらし人形の燈籠を奉納したことが始まりといわれます。当時、大阪方面で隆盛を誇った人形浄瑠璃の技術を取り入れ、現在の形態になったといわれています。



9 子ども教室発表会

八女福島の燈籠人形保存会では、伝統芸能を継承するために、小学生・中学生を対象にした「子ども教室」を開催しており、令和5年度は18名の子どもたちが燈籠人形の「お囃子(はやし)」の演奏を練習しています。下記の日程で発表会を行い、練習の成果を披露します。

【子ども教室発表会】

開催日時：令和5年9月23日（土）14：00～

開催場所：福島八幡宮境内 屋台

※子ども教室は、毎週土曜19時～20時におこなう八女研修棟で行っております。（令和5年5月27日～9月16日の全15回）



10 その他

出演者のみなさんの練習については、9月5日から福島八幡宮の屋台及びおこなう八女研修棟にて行われる予定です。（火曜日～土曜日 19時30分～）※状況によって変動する場合があります。

たま も の まえ
玉藻之前

～ あらすじ ～

【公演時間 約 30 分程度】



① 平安時代の後期に玉藻之前という女官がいました。玉藻之前は、とても美しく優秀なので、鳥羽上皇の愛情を一身に受けていました。



② 玉藻之前は白い顔、金色の毛、九つに分かれた尻尾を持った狐の化けもので、鳥羽上皇に近づいてこの世を魔界におとし入れようとしていました。



③ ある日、天皇の住む宮殿で管弦楽の宴がありました。そのとき突風が吹いて灯りがすべて消えてしまい、宮中の人たちは大慌てとなりました。



④ 宮殿が真っ暗になって大慌ての時、玉藻之前の目が光り、宮殿は昼間以上に明るく照らされました。



⑤ この不思議な光景を見た陰陽博士の安倍泰成は、玉藻之前が化けものだと思破りました。



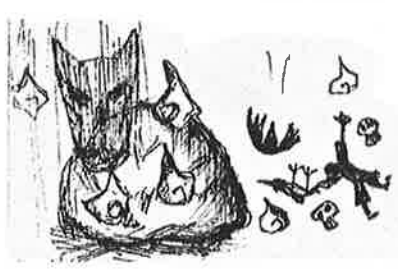
⑥ 安倍泰成が化けもの退治のお祈りをする、玉藻之前は狐の姿に戻って那須野の原に逃げました。



⑦ その後、天皇の命令を受けた武將、三浦上総介が那須野の原に行き、狐の化けものに矢を放って退治しました。



⑧ 退治された狐の怨念は石にとりつき、近寄る人や動物に危害をくわえる殺生石となりました。

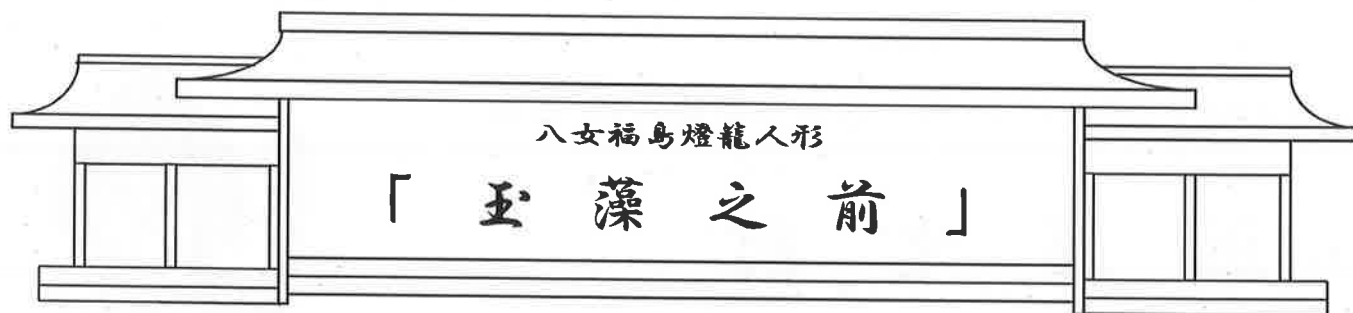


⑨ それから百年ほど後の時代に、玄翁という偉いお坊さんが、仏の力を杖に込め、杖で殺生石を三度打ちました。



⑩ お坊さんの杖で打たれた殺生石は真っ二つに割れ、石の中から狐が飛び出し、成仏して天に昇りました。





〈素抜き〉玉藻之前が狐に変わって
衣装がストンッと早変わり！

最後までサプライズが続きます！
お楽しみに～♪

変幻自在の狐にご注目！

九尾の狐のお話は、浄瑠璃や能楽、
読本などがあります。日本だけで
なく、中国や朝鮮、ベトナムなど
でも語られているそうです。

舞台に出演する人形のお役どころは・・・？



玉藻之前 (横遣い人形)
美しく賢い女官で上皇に愛さ
れていたが、正体は狐の化けも
の。妖術でこの世を魔界におと
しいれようとしていた。



安倍泰成 (飾り人形)
※飾り人形は舞台上で動きません
陰陽博士として呪術や祈祷で都
を守っている。玉藻之前を妖怪
と見破り、宮中から追い払う。



侍女
(横遣い人形)
玉藻之前の付き人



玄翁和尚 (下遣い人形)
殺生石になって危害をくわえ
る狐の化けものを仏の力を借
りて退治した偉いお坊さん。
㊦ 両太金づちの名前もゲンノウ!! ㊦



三浦上総介 (飾り人形)
※飾り人形は舞台上で動きません
安倍泰成が追出した狐の化けも
のを天皇の命令を受けて那須野
の原まで追いかけて退治した。

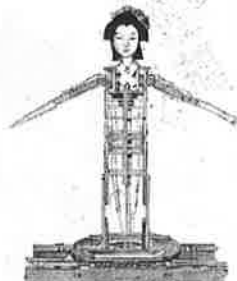


宮中童子
(下遣い人形)
宮中で雑役をする
子ども

舞台内部はどうなっているの・・・？

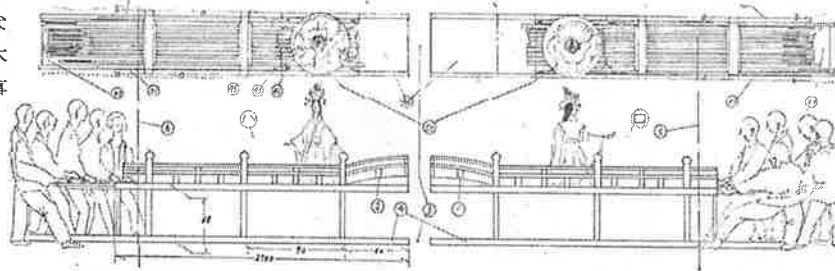
きようげんかた
〈狂言方〉

人形の遣い手と囃子方
の呼吸を合わせるのが
狂言方です。舞台上下層
で互いが見えないな
かでも狂言方の拍子木
で間合いを整える大事
な役割です。



うた はやしかた
〈唄・囃子方〉

物語を語る唄、情景を演
出する三味線、場面にい
ろどりを添える鼓など。
仕切り太鼓の絶妙な間
合いに合わせて、それぞ
れが掛け合うお囃子が
聴きどころです。人形の
動きに合わせて進める
ので、生演奏でおこない
ます。



よこづか
〈横遣い〉

左右それぞれ6人で動かします。舞台袖の離れた
所から、こまやかな操作をするのはとても難
しい技です。なかでも人形が左右の橋を渡る
「送り渡し」は横遣いの見せどころ。左右の横
遣いの息の合った操作にご注目！



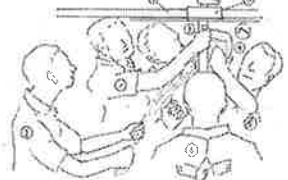
こうけんやく
〈後見役〉

子どもたちが交代で舞台脇から人形
の動きを見守ります。
かつては人形の衣装を直したり、舞台
上の手助けをするのが役割でした。



したづか
〈下遣い〉

舞台の下から6人で一体の人形を動かします。
見上げて操作するので体力いりますよお～！



いしやうかた
〈衣装方〉

衣装の早変わり「素抜き」など、
人形の衣装は次々と変化にと
んでいます。人形の衣装や髪な
どを整えるお世話役です。

